

1.1 大学の理念

長岡崇徳大学は長岡を中心とした中越地域市民の医療と福祉を支えてきた「長岡の医療と福祉の里」の新しいメンバーとして設立されました。いわば地域密着型の大学であり、新潟県、長岡市及び周辺市町村の皆様の支援を受けて生まれました。本学の設立を語るとき、長岡藩士・小林虎三郎による教育にまつわる米百俵精神を忘れることができません。ひもじい思いをしても、子弟に教育を受けさせる重要性は、豊かではない時代だけではなく、豊かになった今でも変わらぬ珠玉の魂ではないでしょうか。これは長岡だけの誇りではなく、おそらく勤勉な日本人の芯となっている精神であると信じて疑いません。

長岡崇徳大学の大学名にある「崇徳」には、本学創始者田宮崇の父であり浄願寺住職でもあった麟氏からの薫陶が受け継がれております。崇徳の二文字は、鎌倉時代に法然上人（1133年～1212年）の説いた言葉「崇徳興仁 務修礼讓」の一節に由来しますが、その意味は徳をあげ仁を尊び、礼節を大切にすることを説いたものです。

この「徳」の概念は、洋の東西を問わず哲学、宗教の中心的課題の一つであり、倫理的、道徳的善に対する意志の恒常的志向性、ないしは善を実現する恒常的能力を意味することから人が求めるべき究極の理想規範ともいえます。徳の重要性については、古くはギリシャの哲学者プラトン（紀元前427年～紀元前347年）が正義、賢明、節制、剛毅の四つの徳をあげ、人間の求めるべき道と考えました。孔子（紀元前552年～紀元前479年）もまた儒教の中で仁、智、礼、信、忠、孝、義などの細目で徳を説いております。

一方、学問や大学の歴史に目を転じますと、哲学、神学が学問の源となることが多いようです。つまり、人間本来の向かうべき崇高な目標として徳が議論されてきたことが分かります。精神の修養によってその身に得たすぐれた品性と定義する場合がありますが、自らの修練によるものであるか否かを問わず身についたものでなければならぬ絶対的存在としての徳が尊ばれています。その結果、徳 *virtue* の理念追求から、真理 *veritas* を探究する自然な流れで今日の自然科学や人文社会科学が発展してきました。

長岡崇徳大学は、崇徳の理念に基づき、生命の尊厳を基盤とする豊かな人間性を醸成し、自己及び他者への深い洞察力をもって自己成長への志向を育むとともに、基礎的・先進的な知識と技術を教授することにより、多様に変化する人々の健康と福祉のニーズに柔軟に応えうる人材を育成します。

1.2 教育目的

長岡崇徳大学は、「崇徳」の理念とこれまでの看護教育の実績を受け継ぎ、中越地域に密着した看護専門職者を育成します。教育目的は、「生命の尊重を基盤とした豊かな人間性と高い倫理観の涵養を図るとともに、専門的知識・技術を修得させ、科学的根拠に基づいた判断力と問題解決能力を養い、多職種と連携・協働して地域社会における保健・医療・福祉の向上に貢献できる看護専門職者を育成する」とし、新潟県中越地域の特性を活かした地域密着型大学を目指しています。

1.3 教育目標

本学は、看護師、保健師（養護教諭二種免許状）を養成する高等教育機関です。特に地域医療、地域包括ケアシステムの考え方に着目し、「多職種と連携・協働できる看護専門職者の育成」を教育目的に明示しています。この目的を達成するための教育目標を以下に示します。

- 1) 幅広い教養に支えられた豊かな人間性と倫理観を涵養するとともに、人々のもつ多様な価値観を尊重し、共感的理解をもって行動できる能力を育成する。
- 2) 看護に必要な知識・技術を修得させ、看護を実践するための科学的な根拠に基づいた判断力と問題解決能力を育成する。
- 3) 保健・医療・福祉・介護領域において多職種と連携・協働し、看護職の調整的役割を果たす能力を育成する。
- 4) 看護学への関心を深め、探求し続けるための批判的思考力、創造力、及び基礎的研究能力を育成する。
- 5) 多様な地域社会の特性に基づいた看護実践と地域的・国際的視野で保健・医療・福祉の向上に貢献できる能力を育成する。